



TITLE:

# P群とcorestriction algebras(有限群論)

AUTHOR(S):

池田, 正

---

CITATION:

池田, 正. P群とcorestriction algebras(有限群論). 数理解析研究所講究録 1982, 475: 105-116

ISSUE DATE:

1982-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/103299>

RIGHT:

## $p$ 群と corestriction algebras

北大理学部 池田 正 (Tadashi Ikeda)

M. Broué, L. Puig は誘導加群を環論的に一般化して corestriction algebra を導入し、いくつかの応用を与えている ([2], [5])。これらの基礎は M. Broué によるイリノイ大の講義としてまとめられているが、邦語では澤島 [6] による簡潔な紹介がある。ここでは次の誘導加群と block に関する D. Barry の結果 (定理 2.1) を corestriction algebra にまで拡張することを目標とする。

### 1. interior $G$ -algebra と corestriction algebra

記号は以下の通りとする。

$(\mathcal{O}, \mathfrak{m})$  : complete discrete valuation ring with maximal ideal  $\mathfrak{m}$

$k = \mathcal{O}/\mathfrak{m}$  : characteristic  $p > 0$

$R = \mathcal{O}$  または  $k$

$B(e)$  :  $G$  の  $p$ -block  $e$  の central primitive idempotent

$D(B)$  :  $B$  の defect group

定義  $A$  を有限生成  $R$ -algebra とし、 $R$ -algebra homomorphism  $f: RG \rightarrow A$  が与えられた時、 $A_f \in \text{interior } G\text{-algebra}$  とする。

定義  $B_f \in \text{interior } RH\text{-algebra}$  (但し  $H \leq G$ ) とした時、

$$A = RG \otimes_{RH} B \otimes_{RH} RG$$

$$(積) (g_1 \otimes e \otimes g_2^{-1})(g'_1 \otimes e' \otimes g'_2^{-1}) = \begin{cases} 0 & g_2 H \neq g'_1 H \text{ のとき} \\ g_1 \otimes e \cdot f(g_2^{-1} g_1) e' \otimes g'_2^{-1} & g_2 H = g'_1 H \text{ のとき} \end{cases}$$

$$f_H^G(x) = \sum_{g \in [G/H]} xg \otimes 1 \otimes g^{-1}$$

$$\left( \begin{array}{l} \text{但し } g_1, g_2, g'_1, g'_2, x, e, e' \in G \\ [G/H] \text{ は } G \text{ の } H \text{ に対する left unit の代表系} \end{array} \right)$$

とおくと interior  $G$ -algebra を作る、これを  $B_f$  の corestriction algebra とする ( $\text{Cor}_H^G B, f_H^G$ ) と記す。

interior  $G$ -algebra, corestriction algebra の性質は澤島 [ ] にゆずるが、加群との関係は、それは丁度、 $M$  を  $RG$ -加群としたとき、 $A = \text{End}_R(M)$

$f: RG \rightarrow \text{End}_R(M)$  : 表現とおくと  $A_f$  は interior  $G$ -algebra になり

$H \leq G$  に対して  $M \in RH$ -加群とし  $\text{Cor}_H^G(\text{End}_R(M))$   $f_H^G$  が、

$\text{End}_R(M^G)_{f'}$  ( $f'$  は  $M^G$  の表現) と同型となることである (例 example 3)

なおその他の記号は澤島 [6] に従い次の様にする。

$A_f \in \text{interior } G\text{-algebra}$  としたとき

$$H \leq G \text{ に対し } A^H = \{a \in A \mid f(h^{-1})a f(h) = a \text{ for } \forall h \in H\}$$

$$H \leq K \leq G \text{ に対し } \text{Tr}_H^K: A^H \longrightarrow A^K$$

$$\downarrow \quad \downarrow$$

$$a \longmapsto \sum_{R \in [H \backslash K]} a^R = \sum_{R \in [H \backslash K]} f(h^{-1})a f(h)$$

$\text{Tr}_H^k(A^H) = A_H^k$  とし、 $A_H^k$  は  $A^k$  の両側 ideal になる。

$P \leq G$  :  $p$ -部分群 とし、 $I^P(A) = \sum_{0 \neq p} A_p^P + \sum A^P$  とすると  
 $I^P(A)$  は  $A^P$  の両側 ideal となる。この時、標準写像

$$A^P \longrightarrow A^P / I^P = A(P)$$

を  $\text{Br}_P$  で表し、 $P$  による Brauer homomorphism と呼ぶ。

$H \leq G$  とし、 $B_P \in \text{interior } H\text{-algebra}$  とし、 $A = \text{Cor}_P^G B$  とする。

今、 $g, g' \in G$  に対し  $e_{gg'} = g \otimes 1 \otimes g^{-1}$  で表すと、

$$\{e_{gg'} \mid g, g' \in [G/H]\}$$

は  $A$  の  $K$ -基底 をなし、 $g, g', h, h' \in [G/H]$  に対し

$$e_{gg'} \cdot e_{hh'} = \delta_{g'h} e_{gh'} \quad (\delta_{g'h} : \text{Kronecker の記号})$$

が成立する。

以下、interior algebra, corestriction algebra のいくつかの性質を述べておく。

(1-1)  $H \leq G$  で、 $B_P, B_{P'}$  を 2つの interior  $H$ -algebras と

$\ker P \subset \ker P'$  が成立すると仮定すると  $\ker P_H^G \subset \ker P_H'^G$  が成立する。更に  $P$  が injection ならば  $P_H^G$  も injection になる。

(証明) 以下、 $G$  の元  $g$  に対し、 $g = \bar{g}g$  ( $\bar{g} \in [G/H]$ ,  $g \in H$ ) と表すことにする。今  $RG$  の元  $x = \sum_{g \in G} a_g g$  が  $P_H^G(x) = 0$  を満たしていると仮定する。定義に任せて次の式が成立する。

$$\begin{aligned} P_H^G(x) &= \sum_{g \in [G/H]} \sum_{h \in [G/H]} \left( \sum_{g \in H} a_{ghg} P(g h g) \right) P \bar{g} h g \\ &= 0 \end{aligned}$$

とこより、 $g, h \in [G/H]$  に対し  $e_{gh} \cdot g$  はすべて異なっているから、 $\text{Cor}_H^G B$  の基底となる。よってすべての  $g, h \in [G/H]$  に対し

$$\sum_{y \in H} a_{ghy} p'(ghy) = p\left(\sum_{y \in H} a_{ghy} ghy\right) = 0$$

が成立し  $\ker p \subset \ker p'$  より

$$\sum_{y \in H} a_{ghy} p'(ghy) = 0$$

となり、逆に  $x \in \ker p'$  として  $p'(x) = 0$  がいえ 証明される。 //

次の例も後に利用される

(1-2)  $P \triangleleft G$  :  $P$ -群,  $p_0: RP \rightarrow R$  : augmentation map とし、

$(\text{Cor}_P^G R, p_0^G)$  を作る。  $RG$  の任意の centrally primitive idempotent  $e$

に対し  $p_0^G(e) \neq 0$  とする。

(証明)  $(\text{Cor}_P^G R)^G \cong R[G/P]$  となり、natural map  $G \rightarrow G/P$  から作られる  $RG$  から  $R[G/P]$  への準同型  $\tau$  とすると上の同型を通して

$$\tau|_{Z(RG)} = p_0^G|_{Z(RG)}$$

が成立する。一方  $\ker \tau \subset J(RG)$  より容易に示される。 //

定義  $A_P, A_{P'}$  を interior  $G$ -algebras とし、 $A^G$  の中等元  $e'$  に対し、

$$\begin{array}{ccc} p^{e'}: RG & \longrightarrow & e'A'e' \\ \downarrow & & \downarrow \\ x & \longmapsto & e'p'(x) \end{array}$$

とすると  $(e'A'e', p^{e'})$  は再び interior  $G$ -algebra となる。ここで

$A_P \times (e'A'e')_{p^{e'}}$  が同型な時、 $A_P$  は  $A_{P'}$  に direct embed されていると呼ぶ。

定義  $A \in \text{interior } G\text{-algebra}$  とし,  $\sigma \in \text{Aut}(G)$  とする. この時

$$A^\sigma = A \quad (\text{基礎の algebra は同じ})$$

$$\begin{array}{ccc} p^\sigma: RG & \longrightarrow & A^\sigma \\ \downarrow & & \downarrow \\ \sigma & \longmapsto & \pi(\sigma^{-1}) \end{array}$$

とすると新しい interior  $G$ -algebra  $(A^\sigma, p^\sigma)$  が定義される.

次の2つの補題は容易に示される

(1-3)  $A_1, A_{p_1}, A_{p_2} \in$  3つの interior  $G$ -algebras とし,  $\phi_i \in A_p \in A_{p_i}$  内に direct embed する homomorphism ( $i=1,2$ ) とする. この時  $A_1^G$  内に原始中等元  $e_1$ ,  $A_2^G$  内に原始中等元  $e_2$  があって,  $e_1, e_2$  のそれぞれの defect group ([6] の [1.8] 参) は同じである.

(1-4)  $A \in \text{interior } G\text{-algebra}$ ,  $\sigma \in \text{Aut}(G)$  としたとき,  $A^G = (A^\sigma)^G$  となり,  $A^G$  の原始中等元  $e$  に対し  $e$  の  $(A^\sigma)^G$  内での defect group は  $D \in e$  の defect group とし,  $D^\sigma$  となる.

## 2. $p$ -群と corestriction algebras

1. の準備を用いてこの小論の目標である D. Burry の結果の拡張とその証明をこの節で与える.

定理 2.1 (D. Burry)  $P \in G$  の  $p$ -部分群,  $U \in \text{vertex}$  が  $P$  となる直既約  $KG$ -加群と仮定する. この時 defect group が  $P \in$  含む  $G$  の任意の block  $B$  に対し  $U^G$  の直既約直和因子で  $B$  に属し  $U$  vertex が  $P$  となるものが存在する.

これを corestriction algebra に拡張すると次の様になる

定理 2.2  $P \in G$  の  $P$ -部分群.  $B_P$  は interior  $P$ -algebra とし.  $B^P$  は local で.  $B^P$  の原始巾等元 1 の defect group は  $P$  と仮定する. この時.  $B_P$  の corestriction algebra  $\in (\text{Corp}^G B, p_P^G)$  とし. defect group が  $P$  を含む任意の  $RG$  の centrally primitive idempotent  $e$  に対し  $p_P^G(e) \neq 0$  となり. 更に  $p_P^G(e) = f_1 + f_2 + \dots + f_r$  と  $(\text{Corp}^G B)^G$  内で直交原始巾等元分解をすると. ある  $f_i$  に対し  $f_i$  の defect group は  $P$  となる.

証明は次の形に書き直しておこう

定理 2.3 定理 2.2 の仮定のもとで. corestriction algebra  $(\text{Corp}^G B, p_P^G)$  の  $P$  に依る Brauer homomorphism  $\in \text{Br}_P: (\text{Corp}^G B)^P \longrightarrow (\text{Corp}^G B)(P)$  とし. defect group が  $P$  を含む任意の  $RG$  の centrally primitive idempotent  $e$  とすると  $\text{Br}_P \circ p_P^G(e) \neq 0$  が成立する.

((2.2) と (2.3) の同値性の証明) Brauer homomorphism による defect group の特徴付け ([6] の (1.8)) と Higmann の criterion の corestriction algebra への拡張 ([1] Ch II (2.7)) を用いて容易に示される.  $\square$

以下 (2.3) をまず  $P \triangleleft G$  の場合とし. 一般の場合を証明する. そのため (2.3) の証明が完結するまで次の記号を用いることにする.

$P$ :  $G$  の  $P$ -部分群.

$B_P$ : interior  $P$ -algebra で Th 2.2 の仮定を満たしているもの

$(A, p_P^G) = (\text{Corp}^G B, p_P^G)$ :  $B$  の corestriction algebra

$e$ : defect group が  $P$  を含む  $RG$  の centrally primitive idempotent.

$\text{Br}_P: A^P \longrightarrow A(P)$ :  $(A, p_P^G)$  の Brauer homomorphism

(2.4)  $P \triangleleft G$  とし,  $f \in A^G$  の原始中等元とすると,  $f$  の defect group は必ず  $P$  となり 特に  $\text{Brp}(f) \neq 0$  となる.

(証明)  $A = \text{Corp}^G B$  内にて  $e_{11} = 1 \otimes 1 \otimes 1$ ,  $p_p^G(g) e_{11} p_p^G(g) = e_{11}^g$  と記すと  $P \triangleleft G$  より  $e_{11}^g \in A^P$  ( $g \in G$ ) が成立する. 更に  $e_{11}$  が  $A^P$  の原始中等元より  $e_{11}^g$  も  $A^P$  の原始中等元となる. (1.4) を用いて  $e_{11}^g$  の  $A^P$  内の defect group は  $P$  となる. 次に  $f$  の defect group を  $D$  とおくと, 容易に  $D \leq P$  がいえる. 今  $|D| \neq |P|$  と仮定する.  $f \in A^G \subset A^P$  より  $f$  は  $A^P$  内で直交原始中等元分解すると, この分解内には  $A^P$  内の defect group が  $D$  となるものが現れる. 一方  $A^P$  の原始中等元の defect group はすべて  $P$  となるからこれは  $|D| \neq |P|$  に矛盾する.  $\square$

(2.5)  $P \triangleleft G$  のとき定理 2.3 は正しい.

(証明) diagram  $\text{REG}^G \xrightarrow[p_p^G]{} A^G \xrightarrow[\text{Brp}]{} A(p)$  において,

$\text{Brp} \circ p_p^G(e) \neq 0$  を示せばよい. (2.4) より  $p_p^G(e) \neq 0$  を示せばよい.

とすると (1.2) (1.1) を用いると,  $p_p^G(e) \neq 0$  が示される.  $\square$

次に一般の場合を示すが, 次の補題は Green の transfer 定理の類似で有益である.

(2.6) (Green [4] 参照)  $N = N_G(P)$  とし,  $B_P$  の corestriction algebra  $(\text{Corp}^N B, p_p^N) \in (\tilde{A}, p_p^N)$  と記すことにする. このとき, interior  $N$ -algebra として,  $A(p)$  と  $\tilde{A}(p)$  は同型になり 特に  $A(p)^N$  と  $\tilde{A}(p)^N$  は algebra として同型になる.

(証明)  $A^G$  内にて 1 を次のように直交原始中等元分解する



$$1 = e_1 + e_2 + \cdots + e_r + e_{r+1} + \cdots + e_n$$

但し,

$$e_i \text{ の defect group (Dier)} \quad \begin{cases} \cong P & i=1, 2, \dots, r \\ \not\cong P & i=r+1, r+2, \dots, n \end{cases}$$

$A^G \subset A^N$  より  $e_i$  を更に  $A^N$  内で直交原始中等元分解してよく,

$$e_i = f_{i1} + f_{i2} + \cdots + f_{in_i}$$

[6] 1.9 の論法を用いて,  $1 \leq i \leq r$  に対して,

“  $f_{i1}$  の defect group が  $P$  かつ  $f_{ij}$  の defect group が  $P$  ではない”

小さい ( $j=2, 3, \dots, n_i$ ) ”

と仮定してよい. すると

$$f = f_{11} + f_{21} + \cdots + f_{r1}$$

とおくと  $f$  は  $A^N$  の中等元となり  $1-f \in I^P(A) = \sum_{Q \leq P} A_Q^P + mAP$  となる.

一方  $fAf \oplus fA(1-f) \oplus (1-f)Af \oplus (1-f)A(1-f) = A$  より上のことを

$$fAf(P) \cong A(P) \quad (\text{interior } N\text{-algebra として})$$

が示される. 一方  $\tilde{A}^N$  内で  $1$  は直交原始中等元分解する.

$$1 = \tilde{f}_1 + \tilde{f}_2 + \cdots + \tilde{f}_s + \tilde{f}_{s+1} + \cdots + \tilde{f}_m$$

$$\text{但し, } \tilde{f}_i \text{ の defect group (Dier)} \quad \begin{cases} \cong N^P & i=1, 2, \dots, s \\ \not\cong N^P & i=s+1, \dots, m \end{cases}$$

全く同様にして,  $\hat{f} = \tilde{f}_1 + \cdots + \tilde{f}_s$  として

$$\hat{f}\tilde{A}\hat{f}(P) \cong \tilde{A}(P) \quad (\text{interior } N\text{-algebra として})$$

が成立する.

今  $(A, P_P^G) \in N$  に制限したものを  $(\text{Res}_{\mathbb{N}}^G A, (P_P^G)_N)$  とする. また

$A$  内で  $e_{gg'} = g \otimes 1 \otimes g^{-1}$  ( $g, g' \in [G/p]$ ) を考え、 $\tilde{A}$  内で  $\tilde{e}_{gg'} = g \otimes 1 \otimes g^{-1}$  ( $g, g' \in [N/p]$ ) を考える。

$$\beta: \tilde{A} \longrightarrow \text{Res}_N^G A$$

$$\begin{array}{ccc} \downarrow & & \downarrow \\ \tilde{e}_{gg'} & \longmapsto & e_{gg'} \quad (g, g' \in [N/p]) \end{array}$$

とすると、 $\beta$  は  $(\tilde{A}, P_P^N) \in (\text{Res}_N^G A, U_P^G)_N$  へ direct embed. する。

更に、 $\beta(e_i) = \text{Tr}_P^N(e_i)$ 、 $\beta(\tilde{f}) = f$  が成立して、 $(\tilde{f} \tilde{A} \tilde{f}, U_P^N)^{\tilde{f}}$  と  $(f A f, (U_P^G)^f)$  は internal  $N$ -algebra として同型になる。よって完全に証明された。

この補題を用いて一般の場合の定理 2.3 を証明する。

(定理 2.3 の証明)  $G$  における  $P$  による通常の Brauer homomorphism を  $S$  とし、 $N = N_G(P)$ 、 $C = C_G(P)$  とする。このとき定義より次の homomorphism  $P_P$  が存在する。

$$\begin{array}{ccc} R[G]^P & \xrightarrow{P_P^G} & A^P \\ S \downarrow & \circlearrowleft & \downarrow \text{Br}_P \\ R[C]^N & \xrightarrow{P_P} & A(P)^N \end{array}$$

同様に次の diagram も作れる

$$\begin{array}{ccc} R[N]^P & \xrightarrow{P_P^N} & \tilde{A}^P \\ S \downarrow & \circlearrowleft & \downarrow \text{Br}_P \\ R[C]^N & \xrightarrow{\tilde{P}_P} & \tilde{A}(P)^N \end{array}$$

とすると (2.6) の  $A(P)^N$  と  $\tilde{A}(P)^N$  との同型写像を  $\beta$  とおくと、

2 の diagram が可換になる。

$$\begin{array}{ccc}
 R[G]^G & \xrightarrow{f_p^G} & A^G \\
 \downarrow s & & \downarrow \text{Br}_p \\
 R[G]^N & \begin{array}{c} \nearrow p_p \\ \searrow \tilde{p}_p \end{array} & \begin{array}{c} A(p)^N \\ \uparrow s^p \\ \tilde{A}(p)^N \end{array} \\
 \uparrow s' & & \uparrow \text{Br}_p \\
 R[N]^N & \xrightarrow{f_p^N} & \tilde{A}^N
 \end{array}$$

更に  $s$  を  $R[G]^N$  から  $R[N]^N$  への包含写像とすると  $\text{Br}_p \circ s = \text{id}$  となる。

(2.5) より  $\text{Br}_p \cdot p_p^N(e') \neq 0$  (但し  $e'$  は  $R[N]^N$  の原始中等元) が成立する。

今  $e' = s \circ s(e)$  とおくと

$$\text{Br}_p p_p^N(e') \neq 0$$

より上の可換性から

$$\tilde{p}_p s(e) \neq 0$$

よって  $p_p \cdot s(e) = \text{Br}_p p_p^G(e) \neq 0$  が示されて、完全に証明

された。□

### 3. 応用

1 で注意した interior  $G$ -algebra と  $KG$ -加群の関係を用いると、容易に、定理 2.2 から定理 2.1 を導くことができる。更に  $K$  の商体  $K$  が代数閉体の時、定理 2.2 はもう少し拡張することができる。

系 3.1  $\mathbb{K}$  の商体  $K$  が代数的閉体とし、 $P \in G$  の  $p$ -部分群、 $B_P \in \text{interior } P\text{-algebra}$  で  $B^P$  が local、 $B^P$  の原始巾等元 1 の defect group が  $Q \leq P$  と仮定する。この時  $B_P$  の corestriction algebra を  $(\text{Cor}_P^G B, f_P^G)$ 、defect group が  $Q$  を含む任意の  $RG$  の centrally primitive idempotent  $e$  とすると、 $f_P^G(e) \neq 0$  となり更に  $f_P^G(e) = f_1 + \dots + f_e \in (\text{Cor}_P^G B)^G$  内で互に原始巾等元分解すると、ある  $f_i$  に対し  $f_i$  の defect group は  $Q$  となる。

(証明) Higmann の criterion の corestriction algebra への一般化と Green の定理の corestriction algebra への一般化 ([1] Ch II, 3.7 または [6] (2.9) 参) を用いてある interior  $Q$ -algebra  $B_P^Q$  で  $B^Q$  は local、 $B^Q$  の原始巾等元 1 の defect group が  $Q$  となるものがある。  $B_P$  は  $(\text{Cor}_P^G B^Q, f_P^G)$  と interior  $P$ -algebra として同型になることがわかる。よって、 $(\text{Cor}_P^G B, f_P^G)$  と  $(\text{Cor}_Q^G B^Q, f_Q^G)$  は interior  $G$ -algebra として同型になるから定理 2.2 が適用される。 //

従って、定理 2.1 を導いた方法と全く同様にして、次の系をえよ。

系 3.2  $\mathbb{K}$  の商体  $K$  が代数的閉体とし、 $P$  が  $G$  の  $p$ -部分群、 $v$  は vertex が  $Q \leq P$  となる直既約  $RP$ -加群と仮定する。この時、defect group が  $Q$  を含む任意の  $G$  の block  $B$  に対し、 $v^G$  の直既約直和因子で vertex が  $Q$  となりかつ  $B$  に属しているものが存在する。

更に系 3.2 に於いて、 $R \in K$  に係数拡大することによって、 $KG$ -加群の場合へと拡張することができ次の系をえよ。

系 3.3  $K$  の商体  $K$  が *splitting field* とし,  $W \in$  既約  $KP$ -加群で  $B \in$  defect group が  $P \in$  含む  $G$  の  $p$ -部分とする. この時  $W^G$  の既約因子で  $B$  に属しているものが必ず存在する.

( 参考文献 )

- [1] M. Br  e , Illinois Univ. での講義録
- [2] M. Br  e and L. Puig , Character and local structure in  $G$ -algebras, J. Alg. 63 (1980), 306-317
- [3] D. Burry , The distributions of modular representations into blocks, Proc. of A. M. S. 78 (1980), 14-16
- [4] J. A. Green, A transfer theorem for modular representations, J. Alg. 1 (1964), 73-84
- [5] L. Puig , Sur theoreme de Green , Math. Z. 166 (1979) 117-129
- [6] 津島行男 , modular 表現の現状と問題, 数理解析研究録 429 (1981), 22-36